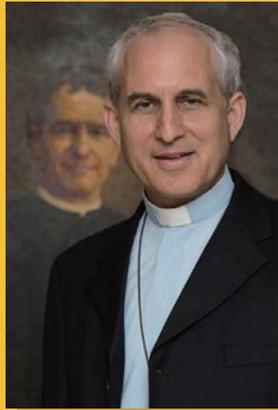


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.92 - 2016年8月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



兄

弟の皆さん、友人の皆さん、

先の6月、教皇フランシスコはローマにある世界食糧計画（WFP、国連機関）の本部を訪れました。スピーチで教皇は述べました。「私たちの兄弟姉妹と共に、兄弟姉妹の飢えと渇きを無くすための闘いが、変化を起こし、変容させる創意豊かな解決策を探求するなかで、疲れることなく、同時に、夢見つづけるという挑戦を — この両方です！ — 私たちに投げかけつづけるものであるようにと願います。」私たちは教皇に申し上げることができます：それは、私たちの愛する父ドン・ボスコがいつも願っていたことです、目覚めていること、同時に常に夢見ながら、ということ。ドン・ボスコが私たちに教えたことはこれです。「サレジオ会員はどこにいますか？」と、ドン・ボスコはローマからの手紙に書いています（1884年）。今日、教皇フランシスコは修道者に呼びかけ「世界を目覚めさせてください」と招いているので、私たちはこのように言うことも

できます：「サレジオ会員はなぜ眠っているのですか？」私たちは時々眠っているので、夢見ることができないのです。すべての宣教召命の起源には、常に、使命の巨大な挑戦の前に目覚められる力があり、そしてもちろん、あえて夢見る大胆さがあります。あなたは目覚めていますか？ 今も夢見たいですか？ すべての人へ、自分の国を出て、生涯をかける宣教の使命が、いつあなたの扉をたたきかわかりません。眠ってしまわないで！

宣教顧問

ギジェルモ・バサニエス神父

夢見つづけてください！

ボランティア活動はいつくしみのわざ

こ

のいつくしみの愛は、教会が始まった日々そうであったように、あらゆる年代の、あらゆる状況に置かれた多くの男性、女性によってあかしされます。宣教の現場に、男性の宣教師の傍らで共に働きながら、かなりの数の女性が参加し、その存在が大きくなっていることは、神の母性的な愛の重要なしるしです。信徒、修道者の女性、

そして今日では多くの家族さえもが、宣教師としての召命をさまざまな形で歩んでいます：福音を告げることから、愛徳の奉仕に至るまで。宣教師の福音宣教する、秘跡的な働きと共に、女性や家族はしばしば人々の問題をより適格に理解し、どのように適切に、時には新鮮な方法で対処したらよいかを知っています：いのちを世話しながら、構造よりも人にしっかりと焦点をあて、個人同士の間でも、そして社会・文化の営みの中でも、特に貧しい人々への配慮・世話を通して、人間的、霊的な手段・資源を、良い関係、調和、平和、連帯、対話、協力、兄弟愛を築くために注ぐのです。」



アチュアルは、ペルーとエクアドルにまたがる地域に暮らす先住民で、シュアールやシウィアール、アワフント、ワンピスの人々と同じく、ヒバロアナの一族に属します。パスタサとファサガの二つの川の岸辺で生活しています。「アチュアル」という言葉は、この地域の大きなヤシの木の名前から来ています：先住民の人々は、その言葉を「沼地の人」と訳します。

サレジオ会員ルイジ・ボツラ神情熱に衝き動かされ、かれこれたのです。私は神のみ言葉を4つカンドシ、シャウィ、アワフンです。一年に一度だけ訪問し、一つのとは通常、「ベケベケ」という舟が進むときに出る音から来ていま



宣教師は神のみ言葉をもたらすい、聖書を読み、ロザリオを祈るちには、カテケジスとサッカーをと、マニオク芋で作られた「マ

す。その味は部族によって異なり、女性たちが出してくれます。先住民の家庭では、男性、女性のそれぞれの仕事が決まられ、区別されています。人々はマニオク芋、トウモロコシ、米を栽培します。
宣教師を訪ねる人たちは、密林のただ中で不思議に思います。「この人は、こんなところで、福音を告げる力をどこから得ているのだろうか？」カヌーで6、7時間かけて移動するとき、私はロザリオを祈り、神のいつくしみのチャプレットを祈ります。それは力を与えてくれます。神に結ばれていなければ、私は何もできません。そのため、祈り、また祈り、そして祈りは、宣教師にとってなくてはならないものです。旅の中で本も読みます、そして宣教師は種蒔かなければならないということを、いつも思い出すようにします。イエスは決して私たちを欺くことなく、最も困難な問題からも、私たちを救い出すことがおできになるのです。

父はここで、神のみ言葉を告げる50年に及ぶ宣教の冒険を開始しの部族に運んでいます：シャブラ、ルイジ神父はそれぞれの部族をころに3、4週間とどまります。私乗って移動します。この名は、舟

ため、秘跡と聖体祭儀を執り行ため、密林に入ります。子どもた教えます。ある場所に到着するサート」という飲み物を出されま

ポーランド出身、ペルーの宣教師 **ヨセフ・カムサ神父**



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエル・ルイジ・カメローニ神父

ポーランドで宣教師として働いたサレジアン・シスターズの尊者**ラウラ・メオツィ**（1874-1951）は、あるとき次のように書いています。「主に、そして主の無限のあわれみに全面的に信頼しなさい、子としての大きな信頼をもって、自分を主に明け渡しなさい、そして制限なしに主を愛し、毎日出会う小さな試練のすべてを主に差し出し、毎瞬間、いつも手を花でいっぱい満たすようにし、出会うとげを花で覆うように努めましょう。」



サレジオ会の宣教の意向

東アジアのすべての管区で、宣教活動・宣教ボランティアのグループが継続して発展しますように。

東アジア-オセアニア地域のすべての管区で宣教グループの文化が徐々に育まれています。この20年の間にすでに創設された宣教ボランティア活動も強化されています。若者のグループや宣教ボランティア活動を通して、宣教の精神が成長するよう、祈りましょう。

